

創価大学 女子大学院生フェローシップ・プログラム

募集要項

(2025 年度)

募集要項

(2025 年度)

1. 目的

本学の男女共同参画事業の推進、女性研究者増加への寄与および研究力の増強のため、大学院博士課程の女子学生を対象に、独立して研究が行える能力の養成に加えて、今後世界市民として直面するであろう諸課題の解決のために専門分野を越えて行動できる知性と実行力を身に着けた女子学生の育成を目的として、女子大学院生フェローシップ・プログラム(以下単に「フェローシップ」という。)を実施します。

2. 募集対象

募集対象学生の所属は以下の通りとなります。

- i) 経済学研究科
- ii) 法学研究科
- iii) 文学研究科
- iv) 教育学研究科
- v) 理工学研究科

3. 採用人数

博士後期課程:2名

4. フェローシップ応募期間

2025年2月28日(金)~3月5日(水)17時まで

5. 応募申請資格

以下の条件を全て満たす者:

- a. 2025年4月に、本学大学院博士後期課程の新入学生であること。または、2025年4月時点での本学博士後期課程在籍期間が12か月未満であること。
- b. 本学から他の奨学金等の支援を受けていないこと。
- c. 指導教員の推薦を受けていること。

6. フェローシップ期間(支給期間)

博士後期課程の修業年限の3年とします。

7. 支援内容

年間学費相当額を上限として奨学金等の支援を行います。

8. 申請手続き

1) 応募書類(ホームページよりダウンロードしてください)

①申請書(様式1) ②履歴書(様式2) ③修士研究の概要(様式3)

④指導教員の推薦書(様式4)

※①②③は応募者本人が作成の上、申請者がメール添付で提出

※④は指導教員が作成し、指導教員からメール添付で提出。

2) 提出先

女子大学院生フェローシップメールアドレス

di_fellow@soka.ac.jp

9. 選考方法

選考は、創価大学女子大学院生フェローシップ選考審査委員会において、提出書類①申請書(様式1) ②履歴書(様式2) ③修士研究の概要(様式3)の研究計画・研究業績及び、面接試験から総合的に判断し、以下に示す審査基準に基づいて選考します。

<選考基準>

- a. 学術の将来を担う優れた研究者になることが十分期待できること。
- b. 自身の研究課題設定に至る経緯が示されており、かつその着想が優れていること。また、研究の方法にオリジナリティがあり、自身の研究課題の今後の展望が示されていること。
- c. 研究を遂行する能力が優れていること。
- d. 日本学術振興会特別研究員への申請経験があることも重視する。

<面接試験> a.日程 2025年3月10日(月)

※面接実施大綱の詳細については、応募者に対し、後日提示する予定

b.面接の内容

面接試験では、研究課題と研究計画に関する発表(発表はパワーポイント等の使用を推奨)の後、これらの内容及び関連分野を含めて試問する。

発表の所要時間は15分程度とし、質疑応答は25分程度とする。

10. 選考結果

選考結果は申請者本人及び指導教員に3月24日(月)にメールで通知します。

11. フェローの義務及び継続

制度の趣旨に鑑み、以下の義務を遵守し、研究活動等に取り組むこと。

- a. 日本学術振興会特別研究員への申請を行うこと。ただし、既に日本学術振興会特別研究員に採択されている者は除く。
- b. 研究計画を踏まえた研究活動に専念すること。ただし、出産・育児・介護に係る中断又は傷病を理由とする中断の場合を除く。
- c. 本学が実施する研究力向上等に関するプログラム(①「コロキウム」、②大学院生対象のFDセミナー等)に参加すること。
- d. 研究活動の状況を定期的に本学に報告すること。
所定の報告書を作成し、1月末日までにメンター教員から di_fellow@soka.ac.jp までメール添付で提出。
- e. メンターによる面談を定期的に受けること。
メンターは、フェローが所属する研究科において研究科長が人選する。

※フェローの継続については、d.の報告書に基づき、次年度継続可否の審査を行い、年度末までに結果を通知します。

12. 支援の取り消し

以下の事由に該当することとなった場合は、本フェローシップの支給を停止し、返還を求める場合があります。

- a. 本学から他の奨学金等の支援を受ける場合
- b. 研究計画の遂行状況又は前条の義務の履行状況が不十分と認められる場合
- c. フェローから辞退の申し出があった場合
- d. その他学長が支援を取り消すべき事由があると判断した場合

創価大学 女子大学院生フェローシップ・プログラム

提出書類

(2025 年度)

様式1.2025 年創価大学女子大学院生フェローシップ申請書

様式2. 履歴書

様式3. 修士研究の概要

様式4.指導教員推薦書

○提出書類の提出方法

申請書類をメール添付にて提出

(様式4.指導教員推薦書は指導教員からメール添付にて提出)

○提出期限

2025 年 3 月 5 日 (水) 17 時まで

○提出先メールアドレス

女子大学院生フェローシップ窓口 di_fellow@soka.ac.jp

様式 1

2025 年度 創価大学 女子大学院生フェローシップ申請書

申請者氏名		生年月日	年 月 日
研究科・専攻	研究科	専攻	
指導教員名			
研究題目			
研究計画の概要（150～200文字程度で記述すること）			
研究計画（詳細）※研究課題の着想に至る経緯とその独創性、研究の目的、研究の方法の独自性、今後の展望に関して、次ページまでの本欄の枠内で記述すること。また、研究計画は、年度毎に課程最終年度まで記載すること。必要に応じて図表等を使用してもよい。			

研究計画（詳細・続き）

研究業績

- ※ 次ページの「研究業績の記載方法」を参照して記載すること。
- ※ (A)～(D)の内容に該当する業績がない場合は、「該当なし」と記載すること。
- ※ 1ページに収まらない場合は、次ページ以降に渡って記載してもよい。
- ※ 研究業績の発表論文の写し（PDF等）を、番号を添えて提出すること。また受賞等に関しては、それを示す書類（Webページの写し等のPDF, 画像ファイル）を提出すること。

(A) 著書への掲載

(B) 論文誌への掲載

(C) 学会発表（国内・国外）

(D) 各種学術活動における受賞等特筆すべき項目

研究業績の記載方法（これ以降のページは提出不要です）

研究業績に記載する研究活動内容は、以下の4項目について、現在までのすべての業績について記載すること。

- (A) 著書への掲載
- (B) 論文誌への掲載
- (C) 学会発表（国内・国外）
- (D) 各種学術活動における受賞等特筆すべき項目

※なお、(D)について掲載をするべきか判断をしかねる内容の場合は指導教員に相談すること。

1. 記載内容・順序

(A)～(D)の記載内容は以下の通りとする。なお、記載順序についても次の通りとする。

(A) 著書への掲載の場合

- 著者（共著の場合は、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を記載された順に記すこと）
- 書名；副書名（双書名）・巻号・ページ
- 出版社・刊行年

記載例)

1) 創価花子.

コンピュータ・ネットワーク（現代人のコンピュータ）. pp. 211-253

朝倉書店, 1998.

(B) 論文誌への掲載の場合

- 著者（共著の場合は、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を記載された順に記すこと）
- タイトル
- 誌名・巻号・ページ・刊行年

記載例)

1) 創価花子、丹木次郎.

気相法により改質したセラミック表面への酵素固定.

粉体と工業. Vol. 16, No. 1 : pp. 394-397, 1998.

(C) 学会発表（国内・国外）の場合

- 発表者（共発表者の場合は、本人の氏名を含め発表者全員の氏名を記載された順に記すこと）
- タイトル
- 会議名、発表形態（ポスターセッション他）、開催期間、開催地（開催国※国外の場合のみ）
- 掲載誌、掲載ページ

記載例)

2) 創価花子、丹木次郎.

並列処理ネットワーク PPN による情報ネットワークの最大フロー運用.

電子情報通信学会回路とシステム研究会. 1997年11月. 新潟. 同学会技術報告書.

CAS97-62 : pp.25-32..

様式 3

修士研究の概要 Summary of Master Course Graduation Thesis

修士専攻 Prospective major	専攻 Major	フリガナ <i>Katakana</i> 氏名 Name	
修士論文題目 Master Graduation Thesis Title			

文字サイズは 12pt とし、1 ページ以内に収めること。

Font size should be 12pt and within one page.

様式 4

申請者氏名

※指導教員は、申請者が、本フェローシップの目的に適い、学術の将来を担う優れた研究者になることが期待できるか、自身の研究を遂行することが出来るか等、その推薦理由を以下にご記載ください。

指導教員の推薦理由

指導教員名

※推薦書は女子大学院生フェローシップメールアドレス di_fellow@soka.ac.jp まで
指導教員からメール添付にて送信ください。